

## 「新指定等・新登録」答申物件

### 《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 9件

「茨城県の県央部に所在する、総数500基以上と推定される東日本最大級の横穴墓群」<sup>よこあなぼくぐん</sup>

1 <sup>じゅうごろうあなよこあなぐん</sup> **十五郎穴横穴群**【茨城県ひたちなか市】

茨城県の県央部に所在する東日本最大級の横穴墓群。274基が確認されており、未知のものも含めると総数500基以上と推定される。7世紀前葉に造営が始まり、9世紀前葉まで追葬で使用される。東日本を代表する大規模横穴墓群であり、古墳時代終末期から平安時代初頭の東日本社会を考える上で重要である。



提供：ひたちなか市

「中世飛驒国の中心・古川盆地の要衝に飛驒国司姉小路氏によって築かれた中世山城群」<sup>ひだ</sup> <sup>こくしあねがこうじし</sup> <sup>やまじろ</sup>

2 <sup>あねがこうじししろあと</sup> **姉小路氏城跡**【岐阜県飛驒市】<sup>ひだし</sup>

<sup>ふるかわじょうあと</sup>  
**古川城跡**

<sup>こじまじょうあと</sup>  
**小島城跡**

<sup>のぐちじょうあと</sup>  
**野口城跡**

<sup>むかいこじまじょうあと</sup>  
**向小島城跡**

<sup>こたかりじょうあと</sup>  
**小鷹利城跡**

14世紀後葉に飛驒国司となり三家に分立した姉小路氏が、中世飛驒国の中心地である古川盆地の、各々の拠点に築いた中世山城群。後に同地へ進出する三木氏<sup>みつきし</sup>や金森氏<sup>かなもりし</sup>の手による改修の跡も良好に残り、中世飛驒国の変遷過程を物語る山城群である。



提供：飛驒市

「9世紀初頭から10世紀中葉までの間に機能した<sup>みかわこくふこくちようあと</sup>三河国府国庁跡」

3 <sup>みかわこくふあと</sup>三河国府跡【<sup>とよかわし</sup>愛知県豊川市】

9世紀初頭から10世紀中葉までの間に機能した三河国府国庁跡。1期から3期に変遷し、3期には<sup>ほったてばしら</sup>掘立柱建物から<sup>そせき</sup>礎石建物へと建物構造が変化する。国府成立直前から衰退までの変遷を知ることができ、古代の地方支配の実態を知る上で極めて重要な遺跡。



提供：豊川市

「<sup>にしほうき</sup>西伯耆の交通の要衝に築かれた城館で、中世から近世における改修等の状況が良好に残る。」

4 <sup>おだかじようあと</sup>尾高城跡【<sup>よなごし</sup>鳥取県米子市】

<sup>いずも</sup>出雲と<sup>にしほうき</sup>西伯耆を結ぶ東西の交通路及び山間部と日本海をつなぐ交通の結節点に築かれた中世城館。13世紀から14世紀の在地領主の住居から始まり、大型の堀と<sup>どるい</sup>土塁、さらに石垣を持つ城郭として整備された。戦国時代以来、交通の要衝として争奪され、城主の変遷と各段階での改修等の状況が良好に残っている。



提供：米子市

「<sup>ばくしんち</sup>爆心地から2 km以内に位置する<sup>ひばく</sup>被爆建物で、その痕跡を顕著に残す遺跡」

5 <sup>ひろしまげんばくいせき</sup>広島原爆遺跡【<sup>ひろしまし</sup>広島県広島市】

爆心地から2 km以内に位置する被爆建物で、その痕跡を顕著に残す遺跡。内部が全焼した旧燃料会館、爆風の痕跡が残る旧日本銀行広島支店、炭化した<sup>もくれんが</sup>木煉瓦などが残る<sup>きゅうほんかわ</sup>旧本川国民学校校舎、被爆伝言が残る<sup>きゅうふくろまち</sup>旧袋町国民学校校舎、被爆直後に被害を発信した旧中国軍管区司令部防空作戦室、<sup>はり</sup>梁が破損したまま現存する<sup>たもんいん</sup>多聞院鐘楼から成る。



提供：広島市



「西条駅近くに広がる近世に始まり近代に発展し現在も続く近代屈指の酒造施設群」

6 <sup>さいじょうさかぐらん</sup> <sup>ひがしひろしまし</sup>  
**西条酒蔵群【広島県 東広島市】**

西条駅前の東西約800m、南北約300mの範囲に広がる近世に始まり近代に発展し現在も続く近代屈指の酒造施設群。江戸時代建設の白牡丹酒造延宝蔵、明治6年（1873）建設の賀茂鶴酒造一号蔵、昭和4年（1929）建設の旧広島県醸造試験場（賀茂泉酒造の一部）、大正14年（1925）建設の福美人酒造大黒蔵などから成る。



提供：東広島市

「細川京兆家の内衆・香西氏の拠点で、後に羽柴秀吉の四国攻め時に改修された山城」

7 <sup>かつがじょうあと</sup> <sup>たかまつし</sup>  
**勝賀城跡【香川県 高松市】**

室町幕府の管領・細川京兆家の内衆・香西氏の拠点。高松湾の西端に位置し、北麓には香西浦を擁する。山頂中央部の堀切状遺構を境に、南西部は主郭及び全体を土塁で囲み、喰い違い虎口など新しい構造を持ち、羽柴秀吉の四国攻め時等に改修されたことが分かる。



提供：高松市

「11世紀半ばに貿易拠点となった『筑前博多津唐房』と一体的に築造された港湾施設」

8 <sup>はかたいせき</sup> <sup>ふくおかし</sup>  
**博多遺跡【福岡県 福岡市】**

11世紀半ばに鴻臚館に代わり貿易拠点となった「筑前博多津唐房」と一体的に築造された港湾施設。硫黄や陶磁器等、当時の交易の具体的な内容を示す遺物が出土するなど、中世のアジア規模での交易の内容やその担い手を示す重要な遺跡。



提供：福岡市

「九州を代表する中世から戦国時代の武士団、<sup>きくちし</sup>菊池氏の室町時代以前の本拠に係る遺跡」

9 <sup>きくちしいせき</sup>菊池氏遺跡 <sup>きくちし</sup>【熊本県 菊池市】

九州を代表する中世から戦国時代の武士団、  
菊池氏の室町時代以前の本拠に係る遺跡。北宮<sup>きたみや</sup>  
阿蘇<sup>あそ</sup>神社、北宮館跡<sup>きたみややかたあと</sup>、河川の護岸<sup>ごがん</sup>施設を検出  
した菊之池<sup>きくのいけ</sup> B遺跡から成り、中世武士団の領域  
経営の在り方や鎮西<sup>ちんせい</sup>随一の国御家人<sup>くにごけにん</sup>、そして  
肥後<sup>ひごのくに</sup>国守護<sup>しゅご</sup>にまで成長する過程を示す。



提供：菊池市

【名勝】 1件

「溶岩流により形成された<sup>ちゅうじょうせつり</sup>柱状節理の断崖に懸かる<sup>ちよくばく</sup>直瀑で、特に近代以降著名となつた。」

1 <sup>しらみずのたき</sup>白水滝 <sup>おおのぐんしらかわむら</sup>【岐阜県 大野郡 白川村】

約2, 200年前の<sup>しんはくさんかざん</sup>新白山火山の溶岩流によ  
って形成された柱状節理の断崖に懸かる高さ6  
7. 4mの直瀑で、乳白色に見えるその姿から  
「白水滝」と呼ばれ、特に近代以降、日光の<sup>け</sup>華  
<sup>ごんばく</sup>厳瀑、熊野の<sup>くまの</sup>那智大滝<sup>なちのおおたき</sup>と並び称される名勝地  
として広く知られるようになった。



提供：白川村

【天然記念物及び名勝】 1件

「断層<sup>だんそう</sup>や節理<sup>せつり</sup>の発達する砂岩層<sup>さがんそう</sup>が風化・侵食を受けて形成された地形と優れた風致景観」

1 サンニヌ台 <sup>だい</sup>【沖縄県 八重山郡 与那国町】

与那国島東部の南東岸に位置し、急崖や台地  
状の地形が約1. 3 kmにわたって展開する岩  
石海岸で、地域の伝承を刻む風致景観。砂岩の  
層理と直線的な節理や断層に沿って風化・侵食  
が進行し、特徴的な地形を呈する。これらの地  
層には、琉球弧の変遷を示す化石や地殻変動の  
痕跡が良好に保存される。



提供：与那国町



## 【天然記念物】 1件

「国内では2か所にのみ隔離分布する氷期の遺存種 ヤチカンバの良好な生育地」

### 1 西別湿原 ヤチカンバ群落【北海道野付郡別海町】

ヤチカンバは、主にユーラシア大陸北東部に分布し、国内では2か所にのみ隔離分布する氷期の遺存種であり、過去の遺傳的多様性をよく維持していると考えられることから学術的に貴重である。西別湿原は、北海道東部における典型的な湿原であり、ヤチカンバの良好な生育地である。



提供：別海町

## 《登録記念物の新登録》

## 【名勝地関係】 4件

「妖怪などの伝承と結び付いた数々の深淵をはじめとする溪流の景勝地」

### 1 藤川谷【徳島県三好市】

妖怪などの伝承と結び付いた数々の深淵をはじめとする溪流の景勝地であり、近年、地域においてその再発見、継承活動にも活発に取り組まれている点でも意義深い。今回は、支流を含め全長約12kmのうち、中流域の2km余りを登録する。



提供：三好市

「田染荘地域の間戸ン岩の岩峰群の景勝と岩屋から成る名勝地で、田園風景も一望する。」

### 2 夕日岩屋【大分県豊後高田市】

田染荘地域の間戸ン岩と呼ばれる岩峰群の西側に所在する岩屋で、近世から近代にわたって西麓の田染小崎から臨むその景勝が称えられ、また、近年には田染小崎の田園風景を展望する地点として定着している点でも意義深い。



提供：豊後高田市

「田染荘地域の間戸ン岩中腹から東を向く岩屋で、中世以来の水にまつわる信仰の名所」

3 朝日岩屋【大分県豊後高田市】

田染荘地域の間戸ン岩と呼ばれる岩峰群の東側に所在する岩屋で、古くからの信仰を伝える名勝地であり、水の確保に苦心してきた田染真中の地域の岩峰と岩屋に込められてきた思いを知る上で意義深い。



提供：豊後高田市

「城原井路の末流の断崖に流下する人工の滝で、その名を広瀬淡窓の漢詩に由来する。」

4 落門の滝【大分県竹田市】

第3代藩主中川久清が熊沢蕃山を招いて作らせた灌漑用水の城原井路の末流の断崖に落差約40mを流下する滝で、その名称は広瀬淡窓の漢詩に由来し、地域において長く親しまれてきた人工の瀑布から成る風致景觀の事例として意義深い。



提供：竹田市